

# 前向き感情でアレルギー改善

山梨大学の中尾篤人教授らは、前向きな感情がアレルギー反応を抑えることを、マウスの実験で明らかにした。ストレスでアレルギー症状が強くなるのは経験的に知られていたが、前向きな感情が症状改善につながるのを直接証明したのは初めてだ。研究成果は新薬の開発や治療に応用できる可能性がある。

アレルギー治療には抗ヒスタミン剤を使うことが多い。

効果が限定的だったり、根治治療につながらないなどの課題がある。一方で、アレルギー反応は心理面の影響もあると考えられており、脳内に作用して症状を改善する薬の開発も期待されている。

中尾教授のグループは、マウスを用いて、脳の中でドーパミンを出す部位に着目した。前向きな感情になるとドーパミンが出ることが知られている。ドーパミンを出す部

位を活性化した後、アレルギー反応であるじんましんを人工的に引き起こした。すると、何もしていないマウスに比べてじんましんの大きさが約2/3割小さくなった。

アレルギーの炎症反応は、原因となる体内物質のヒスタミンが血管に作用することで起こる。ドーパミンが出ることで、ヒスタミンに対する血管の反応が抑えられたと推測できるといふ。